

映画会「どうする？日本の水道」 & 「命の水を考える会ぎふ」総会

● 8月31日（土）pm1：30～3：30

pm1：00 開場、pm1：30～映画上映、pm2：30～3：30 総会

● 長良公園「軽スポーツ研修センター」

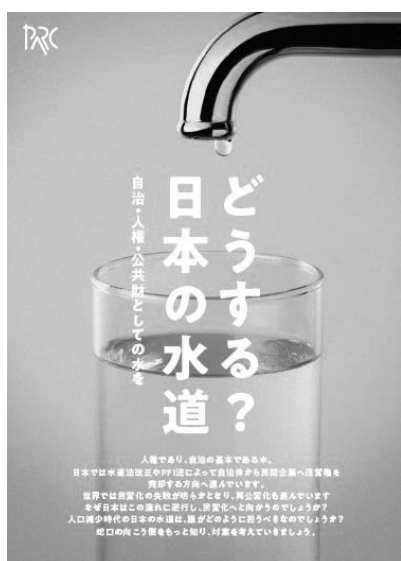
岐阜市長良字城之内 1466-10 TEL058-232-6709 バス停「長良校前町」そば

● 参加費 500 円

みなさま、6月1日に開催しました「水道民営化を考えるシンポジウム」には、約200名の市民が参加していただき、ありがとうございました。東海圏のみなさまのご協力をいただき「命の水を守る」ネットワークは広がっています。

水道民営化を促進する水道法の施行が10月に予定されています。いま「命の水を考える」輪をさらに地域に広げることが求められています。「命の水を考える会ぎふ」も準備会から正式発足させる総会を8月31日に開催することとしました。みなさまの積極的なご参加を期待しております。

また、このたび全国的な情勢を踏まえた映画も完成しました。さっそく観賞したいと思います。岐阜でのシンポの登壇者も多く出演し、大変身近に感じる映画です。是非お誘い合わせの上ご参加ください。



水がなければ私たちは生きていけません。水は人権であり、自治の基本です。日本の水道普及率は98%を超え、豊かな水源と高い技術力によって、世界有数の「飲める水道水」を誇っています。自治体が責任をもって水道を運営することで、日本国憲法第25条の生存権のひとつである「公衆衛生」が保障されています。

しかし、日本の水道は今、多くの課題を抱えています。人口減による自治体の財政難、老朽化した水道管などのインフラ、職員の高齢化・減少です。これら課題の解決策として、政府は水道事業の運営権を民間企業に売却するコンセッション方式を推奨しています。2018年12月の水道法改正にもこれを促進する内容が含まれています。「民間からの投資」は、本当に「苦難を乗り越える万能薬」なのでしょうか？

全国でも率先してコンセッション方式導入を進める静岡県浜松市、宮城県での課題や市民の動き、専門家のお話や水道労働の現場から、「自治」をキーワードに私たちの「水の未来」を考えます。

(映画「どうする？日本の水道」案内より)

主催 命の水を考える会ぎふ

代表 津田直彦 fx.randomwalker@gmail.com (連絡先) 武藤 090-1284-1298